

研究・調査報告書

報告書番号	担当
70	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Effects of alcohol consumption on cardiovascular events in male patients with healed myocardial infarction. 心筋梗塞回復後の男性患者における飲酒量の循環器疾患発症への影響	
執筆者	
Masunaga N, Kimura A, Miyataka M, Nishioka N, Hirano Y, Hayashi T, Ishikawa K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Circ J. 2006 Oct;70(10):1263-8.	
キーワード	
アルコール、循環器疾患発症、心筋梗塞	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>多くの欧米の研究では、健康な中等度までの飲酒者は非飲酒者や多量飲酒者よりも循環器疾患発症が少ないことが報告されている。しかし、心筋梗塞回復後の患者では明らかでない。飲酒と循環器疾患発症の関係を検討した。</p> <p>方法：</p> <p>対象は、男性心筋梗塞回復後の患者である。循環器疾患発症の定義は、心疾患および脳卒中である。</p> <p>結果：</p> <p>65歳未満では、循環器疾患発症率は、非飲酒者 34.6 人/1000 人年、中等度までの飲酒者 17.4 人/1000 人年、多量飲酒者 30.3 人/1000 人年であった。しかし、65歳以上では、それぞれ、47.8, 58.4, 314.8 であった。多量飲酒者は他の 2 群より有意に高い値であった。中等度飲酒者までの発症率も非飲酒者よりも低くはなかった。</p> <p>結論：</p> <p>心筋梗塞後の回復患者で、65歳未満のものでは 1 日 30ml 以内の飲酒者は非飲酒者よりも循環器疾患発症が低かったが、65歳以上では、そのような現象は見られなかった。 (年齢調整されていないようであり、年齢 2 区分した後でも年齢調整がないと、年齢の交絡がある可能性がある)</p>	